

| | |
|--------|---------------------------------|
| 目指す学校像 | 知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校 |
|--------|---------------------------------|

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点目標 | 1 一人ひとりの子どもの可能性を引き出す個に応じた指導の充実と授業改善 2 安全安心な学校づくり 3 地域や保護者とともに歩む学校づくり 4 教職員研修の充実 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学 校 自 己 評 価 | | 年 度 評 価 | | 学 校 運 営 協 議 会 による 評 価 | | | | | |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年 度 目 標 | | 年 度 評 価 | | 実 施 日 令 和 5 年 2 月 1 3 日 | | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | 〈現状〉 ○令和3年度の学校評価で、「お子さんは、授業が分かりやすいと感じている」に対して保護者の95%が肯定的な評価だった。一方で、児童の4%が、「先生の授業は分かりやすい」の設問で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答している。 ○算数の学習において、順序立てて説明する力、既習を生かして見通しをもち取り組む力、思考力・判断力・表現力を生かして解く力において苦手な児童が多く見られる。 〈課題〉 ○学び方を身に付けさせるなど、学習が苦手な児童にも分かりやすい授業の工夫が課題である。 ○確かな学力を身に付け、主体的に解決しようとする力の育成が課題である。 ○児童の思考力・判断力・表現力を高めるための学習指導の工夫が課題である。 | ・特別支援教育の視点による指導・支援 ・算数の研究による授業改善 | ・指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図る。 ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業について研修を行い、授業力を向上させる。 ・児童理解研修を行い、特別支援教育の視点による指導・支援について研修を行う。 ・特別な教育的支援を必要とする児童全員について個別の指導計画を作成・活用する。 | ・学校評価に係る児童アンケートにおいて、「先生の授業は分かりやすい」の設問で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答する児童が3%以下となるようにできたか。 | ・確かな学力の定着をテーマに、授業研究を中心に学校課題研究を進めた。 ・算数、国語を中心に、全教員が研究授業・公開授業を行い、指導方法の工夫・改善を行い、専門性の向上が図れた。 ・児童が学習に対して自信をもって取り組むことができた。 | ・全ての児童に分かりやすい指導を目指して、学校全体で授業のユニバーサルデザイン化の取組等を行った。 ・児童理解研修、ケース会議、保護者面談等を重ねて行い、全教職員の共通理解の下、児童の指導・支援、保護者の相談に組織で迅速に対応したことにより、児童及び保護者の学校や教職員に対する信頼が深まり、児童がいきいきと学校生活を楽しむことができた。 | B | ・学校評価の児童アンケート「先生の授業は分かりやすい」の設問で、「あまりそう思わない」が4.4%、「そう思わない」が0.7%であった。 ・誰一人取り残さないように、全ての児童にわかりやすい指導・支援の方法をさらに工夫する。 ・生徒指導・教育相談・特別支援教育をより一層推進し、児童の支援に積極的に取り組み、学校大好き、先生大好きな児童の育成を進めていく。 | ・特別支援教育の視点による取組は良いと思う。ぜひ根付かせていっていただきたい。 ・教科担任制は、複数の先生で子どもを見られるので、個々に合った対応ができて良いと思う。それにより分かりやすい指導へとつながっていると思う。 ・学習面、生活態度など、家庭でのしつけが大事。家庭と連携して、基本的なことをしっかりと身に付けさせていくと良い。 |
| 2 | 〈現状〉 ○全児童数の約5%が食物アレルギーをもっており、給食対応に配慮する必要がある。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因となる児童のけがは発生していない。 〈課題〉 ○児童の健康状態や配慮事項を十分に把握し、家庭と連携して、安全安心な学校づくりを行う。 ○定期的に安全点検を行い、施設・設備の充実を図る。 ○学校事務と連携して、適切な予算の執行や備品・教材等の管理を徹底する。 | ・危機管理対応 ・施設・設備・予算執行 | ・該当児童の保護者と食物アレルギー面談を実施する。 ・管理職・栄養士・担任・学年と連携して、複数で給食前の食物アレルギー対応チェックを行う。 ・事故発生時の緊急対応体制を整える。 ・校地内巡回、施設設備の点検をし、危険箇所の把握を行う。 ・定期的に施設・設備の安全点検を行い、教育環境を整備する。 ・学校事務と連携して、予算の執行や備品・教材等の適切な管理を行う。 | ・保護者と面談を実施し、教職員が連携して、複数で食物アレルギー対応を行い、食物アレルギーに係る事故をゼロにすることができたか。 ・施設・設備の安全点検を毎日行い、危険箇所の有無を確認し、必要に応じて修繕を行う等の対応を早急に行い、施設・設備の不具合等が原因となる児童のけがをゼロにできたか。 | ・食物アレルギー対応の児童全員との面談をし、対応について厳正に確認した。 ・栄養士・担任・学年担当・管理職で毎日朝と給食前に食物アレルギー対応チェックを確実にし、事故防止を徹底した。 ・児童が安心して給食を楽しみ、事故なく安全に学校生活を送ることができた。 ・校庭の大きくなりすぎた樹木、老朽化した樹木を市教委やPTAと協力して伐採し、安全安心な環境整備を行った。 ・ICTを活用した授業に必要な教室用の備品を整備した。 | ・目指す児童像の一つである「元気でたくましい子」の実現に向け、児童の自主性を促し、体力向上や物事をやり抜く力の育成に取り組んでいく。 ・家庭でのテレビ、ゲーム、ネット等の使用のあり方について家庭と連携して改善策を考えていく。 ・引き続き施設・設備の安全点検を毎日行い、危険箇所の有無を確認し、必要に応じて修繕を行う等の対応を早急に行っていく。 | A | ・食物アレルギー対応の児童の数が多くことに少し驚いた。複数の目で確認し、面談の実施により保護者も安心すると思う。 ・事故があったという報告もなく、しっかりと安心安全が守られていると思う。 ・子どもたちの安全に関わることについては、今後も早急な対応をお願いしたい。 ・全体として取組の方向性は良いと思う。 ・SNSの対応が難しい課題である。 | |
| 3 | 〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会準備委員会を開催し、本年度から学校運営協議会を実施する。 ○最近の2年間は新型コロナウイルス感染防止対策徹底のため、学校行事や地域の行事が中止になった。 〈課題〉 ○本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童像の実現に向けて熟議を行い、地域や保護者とともに歩む学校づくりを推進する。 ○コロナ禍における、学校行事のあり方の見直しを行い、学校の教育活動について保護者や地域に理解を深めてもらうことが課題である。 ○児童がPTAや地域の行事に参加し、楽しむ。 | ・コミュニティ・スクールの実施 ・PTAや育成会等の地域との連携 | ・学校運営協議会を計画的に開催し、学校の魅力や課題を共有し、地域でどのようにして子どもたちを育てていくかについて熟議を行う。 ・生活科、社会科、総合等で地域の教育人材を活用した学習を実施する。 ・児童がPTA、育成会等の地域の活動に積極的に参加できるように、教職員も積極的に参加する。 ・HPの更新を定期的に行い、積極的に保護者や地域への情報発信を行う。 | ・学校運営協議会を年3回開催し、協議会委員アンケートで、「目指す児童の姿について、学校の魅力や課題を共有し、地域でどのようにして子どもたちを育てていくかについて熟議を行うことができたか」か。 ・学校評価に係る児童・保護者アンケートにおいて、「PTA、育成会、自治会などの行事に楽しく参加している」で、肯定的な評価を80%以上にすることができたか。 | ・学校運営協議会を開催し、学校の魅力やよき、課題点について熟議し、現在の学校の実態について確認し共有した。 ・学校・保護者・地域で協働することで、児童が地域や社会とかわる機会が増え、しっかりと挨拶ができる児童が増えるなど社会性の成長につながった。 ・PTAと連携し、親子ボランティア活動、花火大会等を実施し、多くの親子が参加して活動を楽しんだ。 ・中島地区育成会や自治会の活動に児童が多数参加して地域との交流を楽しんだ。 ・保護者の相談に積極的に耳を傾け、対応が必要な場合はケース会議を開き、組織で迅速に対応した。 | ・学校運営協議会において熟議をさらに活発に行い、学校運営や教育活動の継続的な改善につなげる。 ・学校、家庭、地域、それぞれの立場からの働きかけをして、児童の挨拶力のさらなる向上を目指して協働していく。 ・PTAや地域の行事等に積極的に参加し、保護者や地域の方と顔を合わせて協働できた。今後は保護者や地域とさらに連携・協力して、学校の長所やよき、課題点について共有し、魅力ある学校づくりを進め、子どもたちの将来に必要な様々な力をつけられるようにする。 | B | ・コロナ前は学校、家庭、地域が三位一体だったものが、コロナ禍ではまだまだ課題がある。 ・地域との連携は徐々に戻り、とても工夫されていると思う。 ・今後地域の活動が通常通り行われていくと思うので、関心を持ってくださる先生が増えるとうれしい。 ・児童の挨拶は本当にできるようになってきている。 ・PTAの花火大会の取組はとても良かったと思う。 | |
| 4 | 〈現状〉 ○一人一台情報端末の整備により、日常的にICTを活用した授業改善に取り組んできた。 ○昨年度は、教科担任制の実施に向けた準備を進めた。 〈課題〉 ○情報端末の活用に関する教職員研修の充実と授業力の向上。 ○高学年の教科担任制を実施し、指導体制を確立する。 | ・校内研修の充実 | ・全教員がPC端末を使った公開授業を行い、専門性の向上を図る。 ・エバンジェリストを講師にして、授業等におけるPC端末の効果的な利用について、校内研修を行う。 ・教科担任制に関する校内研修を行いながら、高学年における教科担任制を段階的に実施する。 | ・全教員がPC端末を使った公開授業を学期に1回以上行うことができたか。 ・エバンジェリストを中心に、授業等におけるPC端末の利用について、校内研修を学期1回行うことができたか。 | ・授業等におけるPC端末活用の校内研修、PC端末を活用した学習の公開授業を行い、教員が専門性を高め、積極的に授業でICTを活用したことにより、児童のタブレットの活用スキルが向上し、意欲的に学習に取り組んだ。 ・第5、6学年において教科担任制を実施し、教員の教材研究の深化による授業の質の向上と複数の教員の連携による多面的な学級指導や児童理解が実現した。これにより児童が担任以外の教員とも関わられるようになり、相談等する際の選択肢が広がった。 | ・校内研修会や放課後等の時間を利用して、ベテランと若手が積極的に交流し、教職員の連携・協力体制が構築されている。教職員の同僚性が高まり、良好な職場環境になって、児童にも余裕をもって接することができ、児童も落ち着いて学習に取り組むことができていっているので、継続していく。 | B | ・タブレット等のICT教育の良さとは具体的にどのような点か、また、ICT教育だけでは補えない部分はどんな点を明確にして取り組んでいく必要がある。 ・教科担任制はだいぶ進んでいるようで良いと思う。一層の推進が望まれる。 ・教員間にチーム意識が生まれていることはすごく良いことだと思う。さらに進めていってほしい。 | |